



# オンラインデータベースの活用

北川 繁男

## <抄録>

単なる朝読書からの脱却とリソースの活用。

## <キーワード>

オンラインデータベース、国語力・思考力の活用、朝の読書

## 1 はじめに

本校、日出中学校・高等学校は東京都目黒区にある私立の中高一貫校である。日出中学校では、主要5教科を含む全授業でアクティブ・ラーニングを取り入れ、基礎学力の定着を学習の目標としている一方で、探究型の学習にも力を入れている。探究学習では、各学年に適したテーマを設定して、そのテーマに沿って情報収集とフィールドワークを繰り返し行っている。学年の最後には、発表コンクールというプレゼンテーション大会を開催して、探究学習で得られた学習成果を発表する場を設けている。

## 2 自分を知るきっかけにする探究学習

本格的な探究型学習とアクティブ・ラーニングを導入して5年。年々、生徒たちは見違えるようになってきた。一番は主体性。文化祭一つ取り上げてもそれは顕著で、3年生が1年生をぐいぐい引っ張っていくので、教員はほとんど口を挟む余地がないほどである。文章力や計算力といった力は教員の指導で身に付くが、主体性や積極性といった、いわゆる資質にアプローチするには生徒自身が考えて動くアクティブ・ラーニングが効果的だと考える。アクティブ・ラーニングの最たるものが、フィールドワークを含む調べ学習と発表コンクールだ。調べ学習のテーマは学年ごとに設定し、そのテーマから生徒たちは自分たち独自の問題や課題を設定する。中学1年生の学年テーマは「目黒区」、中学2年生は「日本の環境」、中学3年生は「諸外国から見た日本」という具合だ。そこから、例えば1年生だと「目黒区のリサイクル状況とゴミの回収」、「目黒区の生態系」などとテーマを絞って学習していく。この調べ学習は各チーム5、6人で行

い、資料の収集とフィールドワークを必ず取り入れるようにしている。

学年のテーマ設定は、共通して日本というキーワードがある。日本というテーマを中学校のテーマ設定したのは、自分を知るという意味がある。将来の進路を決める際、「自分って何？」と自問したときに、答えに窮してしまわぬように、まずは、自らを取り巻く環境を知ること、自分を知ってもらうきっかけをつくりたいと考えた。自分の身の回りのことを知り、日本、日本人と拡大していったら、ひいては自分のことを知るヒントにしてほしいと考えている。つまり、この探究学習は個人の資質にアプローチするだけでなく、キャリア教育の一翼も担っている。



KITAGAWA, Shigeo : 日出中学校・高等学校 (東京都目黒区目黒 1-6-15)



### 3 情報収集の場としての図書館とデータベース

探究学習を始めるにあたり、情報の収集と情報の整理は重要な要素の1つになるが、本校で所有しているパソコンの台数は中学生1人に対して1台が割り当てられるほど充実しており、さらには、生徒は、タブレット端末も教材として所有している。また全館、無線LAN環境も整っているため、インターネットによる情報の収集に苦労することがない。

しかし、情報の収集の方法や整理の仕方となると、ツールを与えただけでは、効率よく行うことは難しい。そこで、本校では、司書教諭が主体となって情報収集の方法や得られた情報の整理の仕方までを生徒に教える授業を行っている。また、司書教諭と連携して、生徒のニーズにあった書籍を入手している。

このような探究型の調べ学習を導入する以前は、授業で図書館を利用することは、ほとんどなく、生徒の図書館の利用は放課後の時間が主であった。現在では、図書館を調べ学習の拠点としているため、1週間に1度は必ず授業で図書館を利用するシーンを作ることができている。

本校では、朝日新聞社の「朝日けんさくくん」などの新聞記事データベースを導入しており、調べ学習のテーマに沿った記事を検索している。書籍や、新聞記事から得られた情報を発表コンクールに向けてエビデンスノート（情報を整理するためのノート）にまとめている。

本校では新聞記事データベースは調べ学習を本格的に行う前から導入していたが、システムの導入とシステムの利用は必ずしも等しいとはいえなかった。いくらよいシステムを導入しても、その活用シーンがなければ積極的に利用することはない。その状況を改善させたのが、本校の調べ学習（発表コンクール）である。

発表コンクールでの発表を価値あるものにするために、新聞記事から事実を抽出し、さらに得られた情報が信憑

性のあるものかを検証するべくフィールドワークも実施している。

### 4 基礎学力の定着にむけてのデータベース活用

「朝日けんさくくん」などの新聞記事のデータベースは探究型の学習で多く利用しているが、それ以外にも本校では、「朝日けんさくくん」を教育活動の一環として活用している。

朝読書は、今や多くの学校で導入されており、目新しさはもうない。そして、朝読書を行う目的はほとんどの学校で共通しているのではなかろうか。それは、生徒の読書離れを懸念してのもの、朝読書をすることで、脳を活性化させて1時間目から集中して授業に臨ませるためといったものではないだろうか。

本校では朝のホームルームを大きく2つの取り組みに分けて行っている。1つがネイティブの教員による、英会話の取り組みと、もう1つが読書の取り組みである。

読書に関しては、自由読書ではなく、朝日新聞の天声人語を読書するようにしている。その目的は、読書離れを懸念してではなく、また、1時間目から集中して授業に臨ませるためでもない。天声人語という共通のトピックに対して、自分の意見を書かせることで、単に文字を追うのではなく、深く考える時間を演出している。好きな本を読むメリットも多くあろうが、本校では、教育目標として基礎学力の定着を掲げている。基礎学力を何で測るかは難しい問題として、何はななくとも国語の力は重要である。正しく読み取り、そして自分の考えを論理的に的確に表現する力。この力を培おうとするとき、自由読書だけでは、あまりにも頼りない。読み応えのある文章を生徒に与え、それを読み、その内容に対して自分の意見を書かせるという時間を演出することが基礎学力の定着に直結する重要なファクターになるであろう。

